

【1 分解説】OECD 閣僚理事会とは？

取締役 総合調査部長 石附 賢実

OECD 閣僚理事会は、OECD（経済協力開発機構）の最高意思決定機関であり、年 1 回開催される重要な国際会議です。各加盟国から外務・経済関連の閣僚などが参加し、世界の政策課題について議論を行い、OECD の今後 1 年間の優先事項を設定します。OECD 加盟国は自由・民主主義・法に基づく支配・人権といった価値観を共有し、自由で開かれた国際経済秩序を追求してきました。OECD 閣僚理事会は G7 サミットの約 1 か月前に開催されることが多く、その前哨戦としての性格を持ちます。

2025 年 6 月の閣僚理事会では、第二次トランプ政権による自由貿易体制への挑戦が焦点となるでしょう。2025 年 1 月、トランプ大統領は OECD が推進するグローバル企業への国際デジタル課税を含む国際的な税制改革を無効とする大統領令に署名しました。同年 4 月には、約 60 カ国に対して相互関税を課す決定を発表しました（その後、報復措置を講じていない国については 90 日間の猶予を公表）。こうした一連の保護主義的政策は、OECD が長年推進してきた自由で開かれた国際経済秩序の根幹を揺るがすものです。米国が OECD 閣僚理事会の場でどのような主張を展開するのか、また各国の反応や会議の成果文書がどのようなものとなるのか、注目されます。

関連レポート

- ・「【1 分解説】OECD とは？」(2023 年 5 月)<https://www.dlri.co.jp/report/ld/250581.html>
- ・「【1 分解説】相互関税とは？」(2025 年 3 月)<https://www.dlri.co.jp/report/ld/423769.html>